

令和3年5月27日（木）配信

「歯数とアルツハイマー型認知症との関連」で 日本歯科総合研究機構が論文を発表

日本歯科総合研究機構（機構長：堀 憲郎）はこのほど、恒石美登里・主任研究員を中心にNDB第3者提供データを用いた「歯数とアルツハイマー型認知症との関連」について、英語論文を発表し、雑誌「PLOS ONE April 30, 2021（オンラインジャーナル）」に掲載されました。概要は次のとおりです。

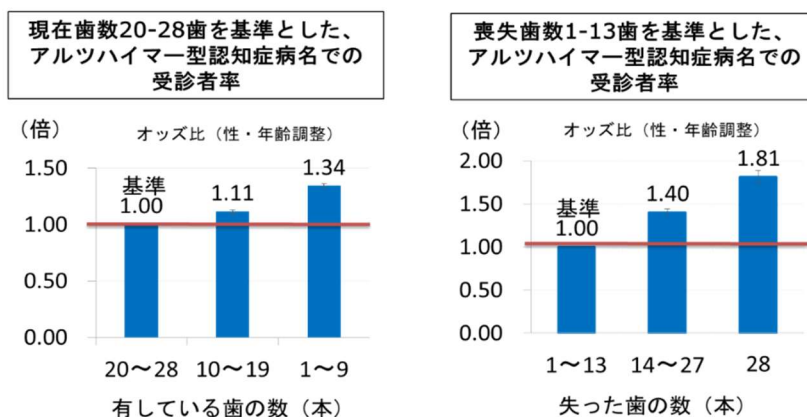
1. 発表者

恒石美登里（日本歯科総合研究機構）、山本龍生（神奈川歯科大学）、山口武之、小玉 剛、佐藤 保（以上、日本歯科医師会）

2. 論文の結論

2017年4月に歯周炎または歯の欠損を理由に歯科受診した60歳以上の患者、それぞれ401万名、66万名を対象として、アルツハイマー型認知症病名の有無との関係を検討した。その結果、性・年齢の影響を統計学的に除外しても、歯数が少ない者、欠損歯数が多い者ほどアルツハイマー型認知症のリスクが高いことが明らかとなった。

3. 結果



4. 発表雑誌

雑誌名：PLOS ONE April 30, 2021（オンラインジャーナル）

<https://doi.org/10.1371/journal.pone.0251056>

論文タイトル：Association between number of teeth and Alzheimer's disease using the National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups of Japan

